

## 白河の歴史的風土

白河市建設部 土木 功

白河市建設部 土木 功



## 白河市の国指定史跡

現在、白河市には国指定史跡が7件10遺跡（南朝も含む）が存在する。国史跡と位置づけられた遺跡は、大正から昭和にかけて活躍した岩越二郎、藤田定市両先生の存在が大きい。

二人は、教員の傍ら発見された遺物の採集や発掘調査を行い、早期に調査報告書を発行して、遺跡の価値を明らかにするとともに、遺跡保存の必要性を説いている。



- 早期の報告書発行。（ガリ版刷で発行）
- 雑誌等での紹介。
- 遺跡風の開掘。
- 生徒達への教育。

※二人は、戦後福島の考古学へも寄与。

## 岩越二郎先生

- 明治25年 熊本市生まれ。
- 東京美術学校（現東京芸術大学）彫刻科を卒業の後、白河中学（現白河高校）の美術教師として赴任。
- 借宿庵寺での瓦採集、調査。
- 関和久での瓦採集。
- 谷地久保古墳、下総塚古墳、泉崎横穴、白河園跡、天王山遺跡などの調査に関わる。
- 全国の寺院の瓦、瓦や梵鐘の拓本を残す。



## 谷地久保古墳

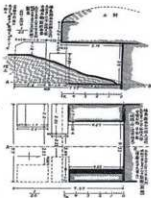
石廊洞口部の写真（大正15年）

地元住民の案内により現地確認、石廊の実測図を作成。



## 石廊実測図

- 測量調査を行った結果、埋葬施設は横口式石廊で、その規模から穴葬舎が納められたものと推定。
- 明白香村に存在する中尾山古墳に共通すると位置づけた。
- 昭和58年、穴沢味光先生の尽力で、関干善教先生（関西大学考古学研究室）により測量調査が行われる。



## 関和久採集の瓦



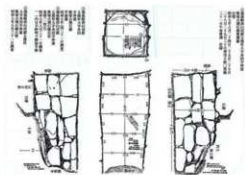
大正15年に、この瓦が発見。関和久周辺に寺院や官衙が存在する可能性が高いと判断された。

## 下総塚古墳調査風景(昭和7年)

長雨により、横穴式石室の入口が開いたことを受け、石室内部の調査及び写眞が行われた。  
調査の結果、この古墳は埴輪を伴い、横穴式石室を埋葬施設とする前方後円墳と位置づけられた。



## 下総塚古墳石室実測図



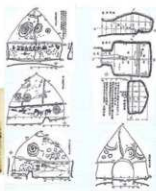
## 横穴式石室・埴輪



埴輪型埴輪

## 泉崎横穴墓

- 昭和8年、道路改修時に発見。
- 吉野先生実測図の作成、写眞の模写を行う。
- 昭和9年国史稿に指定。



## 泉崎横穴壁面



## 借宿庵寺跡



礎石



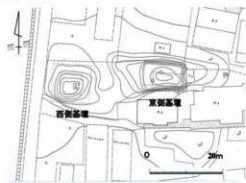
礎石

瓦



瓦、埴仏の存在から、この地には寺院が存在し、並列する瓦礫から法隆寺式でないし法起寺式の伽藍配置を有するものと推定された。

### 測量図(昭和0年)



### 借宿庵寺・圓和久出土瓦



### 藤田定市先生

- ・明治43年白河市生まれ。
- ・立正大学高等師範部地理科を卒業し、昭和19年より白河農業高等学校の教壇に立つ。
- ・卒業後もまもなく市内の遺跡の踏査を行うと共に、文化財保護活動を行っている。
- ・天王山遺跡、白河院跡の調査。
- ・白河市内のみならず、県南地域各地で遺物探査。

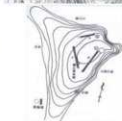


### 天王山遺跡の調査

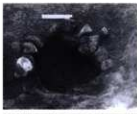
昭和25年2月、調査作業を行っていたところ、大量の土器が発見され、藤田定市先生に情報もたらされる。

16日に現地を訪れ調査に着手する。調査は、調査作業により土器がまわって出土した周囲を広げ、遺物の存在を確認しながら進められた。

一次調査 A～R号地 (18箇所)  
二次調査 A～Cトレンチ

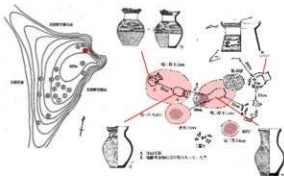


### 遺構と遺物出土状況



### M号地

位置・標高 M号地の長6m、幅約5.5m、北西角の掘土の地層は12m深、掘5m調査、2ヶ所程度土、その掘土層上に浮土層が形成して出土、掘の掘土層上の奥のからは掘がこれら層もれ程度で調査、北角の角根石が柱土層に深く埋もれて発見。



## 出土遺物

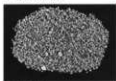
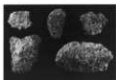


天王山式土器



石器・管玉  
土製紡錘

## 植物遺物



## 調査報告書

昭和25年に、2度にわたる調査を実施。調査の結果、遺跡の性格については、調査者の堀田先生は断片的な論と位置づけた。明治大学杉原荘介先生は集落跡の可能性を指摘。

出土土器については、東北大学伊東信雄先生により「天王山式土器」と命名され、現在弥生時代後期前半の標式となっている。



## 白河開跡

- ・戦前に国史跡の仮指定を受ける。昭和34年～38年、改めて国史跡指定を目指した確認調査を実施。
- ・国史跡指定を目指した計画的な調査の始め。



## 2人が関係した遺跡の位置づけ

- ・**信宿庵寺**—法程寺ないし法隆寺式伽藍配置と推定。昭和28年に福島県指定史跡になる。
- ・**信宿庵寺出土遺物**—平成7年、福島県重要文化財指定。(宮越コレクション)
- ・**開和入遺跡**—昭和47年から10年間調査。昭和59年国史跡指定。(開和入遺跡出土品—平成16年福島県重要文化財指定。)
- ・**下鉢塚古墳**—埋蔵文化財包蔵地。
- ・**谷地八保古墳**—昭和58年、関西大学考古学研究室調査。昭和63年福島県史跡に指定。
- ・**天王山遺跡**—埋蔵文化財包蔵地。
- ・**白河開跡**—昭和41年国史跡指定。
- ・**小嶋城跡**—昭和36年市史跡指定。
- ・**白川城跡**—昭和28年福島県指定史跡。

## 舟田中道遺跡

県営は埋蔵品調査に伴い、発掘調査を実施。

吾妻調査区で6世紀後半から7世紀前半頃の堂塔基壇跡を発見する。

平成11年に、周囲の遺跡と合わせ、群としての国史跡指定の方向性を確認し、市は遺跡を現状保存に方針転換。

◀地元反対、戸別訪問による説得。約1年後に保存決定。

### 遺跡紹介



舟田中道1号墳

方形区画遺

下総塚古墳

**豪族居館跡** 北西部西端、一辺70mほどの楕円で区画。6世紀後半から7世紀前半頃の年代。横幅約3m、深さ1m。櫓列、塼穴建物あり。



**舟田中道1号墳** 下総塚古墳の北西側に位置。径20mの円墳。7世紀前半頃の年代。居館跡の關係は？



### 新たな発見による再調査のスタート

景観は揚整備事業に伴う舟田中道遺跡の発掘調査において、平成10年に豪族居館跡を発見。

この発見により、それまで点としての存在であった近接する下総塚古墳（前方後円墳）、信宿庵寺跡（古代寺院）、関和久宮御遺跡（古代白河郡衙）、谷地久保古墳（横口式石塚）が、大化改新前後の地方豪族の足跡をたどることのできる遺跡群として高く評価される。



### 古代遺跡群



### 下総塚古墳

舟田中道遺跡の保存決定を受け、平成12年度より確認調査を開始。墳形・規模・遺物の存在確認、年代特定が目的。

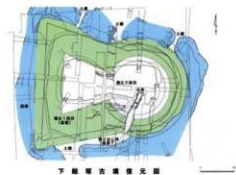


### 調査成果

墳長71.8m。6世紀後半。発掘調査で明らかとなった後期古墳としては東北地方で最大規模を誇る。多種多様な埴輪を新立。白河国造の墓としてふさわしい内容。



**想定復元図** 基壇を有する墳形は、栃木県の同時期の古墳に共通するものがある。



下 藤 塚 古 墳 復 元 図

**石室全景** 天井石は抜き取られてしまっている。



平成14年撮影

**石室入口の様子**



昭和7年調査時



平成14年調査時

**出土した埴輪**

様々な埴輪が存在。継立位置は確認できなかった。



形象埴輪(人物)



形象埴輪(馬)



円筒埴輪



形象埴輪(人物)



形象埴輪(太刀)

**借宿鹿寺跡**

寺域、伽藍配置、創建年代の確認が目的。



上空から

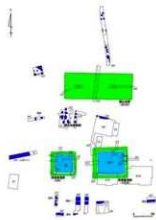


本堂基壇(金堂跡) 残瓦

塔基壇(塔跡) 残瓦

**遺構配置図**

- ・法隆寺式伽藍配置であることを確認した。
- ・創建年代を確定するには至らなかったが、これまでの見解である7世紀末頃を踏襲。
- ・初めて発掘調査で埴輪が出土した。



### 伽藍配置



### 出土遺物



### 谷地久保古墳・野地久保古墳



### 横口式石槨と前庭部

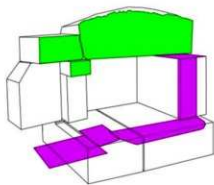
墳形、前庭部の状況、背面の土  
地造成痕跡などの確認が目的。



### 古墳全景



### 横口式石槨復元案



### 古墳に立つ綱干善教先生



### 参考までに高松塚古墳



横口式石階模式図

壁画



### 高松塚古墳壁画模写



今井珠泉画伯

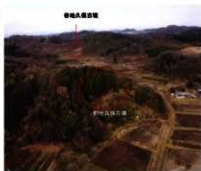
白河市の名誉市民第1号。  
前田青都先生に師事、古墳壁画の模写を担当。



東賢塚北側女子像

### 野地久保古墳

平成16年に発見される。杉林内に床石のみ存在する。  
墳形や規模の確認を目的に調査実施。  
上四方墳であることが判明。



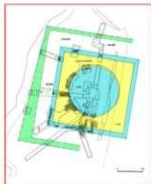
野地久保古墳

野地久保古墳

### 古墳全景



### 検出状況と復元図

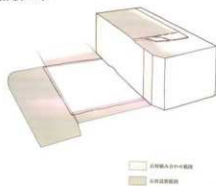




周辺に残る石材



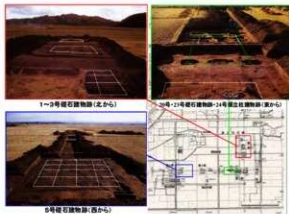
石櫛復元案



京都府・奈良県 石のカタ古墳



関和久官衙遺跡



復元された正倉建物



## 関和久官衙遺跡の範囲



## 調査成果と遺跡群の位置づけ

- 下総塚古墳 全長71.8mの前方後円墳で、多種類の埴輪を伴う。6世紀後半に位置づけられ、白河国造の墓として最もふさわしい古墳。
- 舟田中道遺跡 1辺70mほどの溝で区画。6世紀後半7世紀前半頃に位置づけられ、下総塚古墳の次代を担った白河国造の本拠と推定。
- 関和久官衙遺跡 7世紀後半に成立した、古代白河郡衙。
- 信宿庵寺跡 法隆寺式伽藍配置を有する。埴田出。複合六葉蓮華文軒瓦瓦は、関和久官衙遺跡と共通。7世紀末頃には成立。
- 谷地久保古墳 直径17mの円墳。横口式石標は畿内の終末期古墳に類似。
- 野地久保古墳 東北初の上円方墳。横口式石標を伴う。

白河国造が大化改新を経て、新たな国の仕組みの中で郡司として活躍。それを遺跡として遺える稀有な例として国史跡に指定。

- 白河舟田・本郷遺跡群—下総塚古墳、舟田中道遺跡、谷地久保古墳  
野地久保古墳（H17指定、H22追加指定）
- 白河官衙遺跡群—関和久官衙遺跡、信宿庵寺跡  
（S99指定、H22名称変更、追加指定）

## 天王山遺跡

裾部と丘陵頂上までの比高第80m。



## 平成の調査

遺跡の内容確認を行い、国史跡指定とすることを目標として、平成28年から30年まで調査。

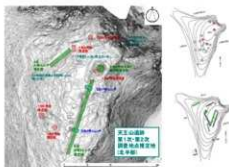
### 調査成果

- ①現状の地表面で見られる痕跡は、昭和25年調査箇所の痕跡だった。
- ②堅穴建物跡が、丘陵頂上側の平坦地に広がっている。複数の重葺が見られた。
- ③土器をはじめ炭化米、タリ、タルミ、アワなどの植物遺物が確認される。

およそ70年の時を経て、遺跡の性格は集落であることが判明。

令和3年10月 国史跡指定。

## 現況微地形



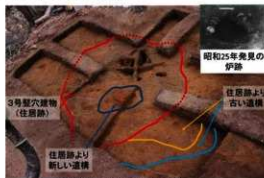
## 丘陵頂上部全景



### 3号トレンチ検出遺構



### 3号トレンチ遺構の状況



南端部での住居跡確認状況 (北東から)

### 4号トレンチ全景



### 人と遺跡の関わり

大正末年から昭和にかけて、岩越二郎・藤田定市先生の活躍により、貴重な発見とともに、遺跡の保存につながった。

- ・信宿庵寺、圓和久宮御遺跡、谷地久保古墳、白川城跡などは、昭和に国や県の指定の史跡となり、保存が図られた。
- ・下総塚古墳や天王山遺跡は、若干のダメージを受けながらも、失われることなく現在まで存続してきた。



これらの背景には、岩越・藤田両先生と活動もさることながら、先生と行動を共にし、先生より遺跡の重要性や保存の必要性を教えられたことを生徒達が記憶の片隅に留め、その後の生活において『**先生が大事な遺跡と書っていた**』ので無くせないという思いにつながっている。  
(もと生徒の証言より)

平成に入り、身田中道遺跡での一つの発見が、それまで点としての存在であった遺跡が、一本の線としてつながりを持っていると評価され、新たな取り組みが展開した。

また、遺跡の保存問題に関わり、遺跡保存の大変さを経験したことを契機に、改めて地域における歴史解明上重要な位置を占める遺跡群について、明確に位置づけを行うため、発掘調査により内容を明らかにし、国史跡指定を目指した取り組みを計画するに至る。

目指すは

- ・下総塚古墳、谷地久保古墳、信宿庵寺跡の国史跡指定。
- ・小崎城跡の国史跡指定。
- ・白川城跡の国史跡指定。
- ・天王山遺跡の国史跡指定。



計画は、当初文化財担当者の思いであったものが、平成19年以降、『歴史・伝統・文化を活かしたまちづくり』が市政の大きな柱に位置付けられたことと、重要遺跡の調査から史跡指定までを計画的に進める環境が整った。

### 今後に向けて

国史跡指定を目指した発掘調査は、調査範囲を限定しながら実施したものであったが、その内容は、日本の歴史、東北の歴史を考える上で重要な発見をもたらし、改めて白河という地の歴史的・地理的重要性が確認できた。そして、白河関の設置により、白河が陸奥(奥州)の関門と位置付けられ、その後も関門としての歴史的役割を担うことになったことが、遺跡の存在やその内容から確認できた。

国史跡として位置付けられた遺跡群は、遺跡範囲の確定、さらなる内容解明という作業が残されている。さらに、地域の歴史を語る証人として、現代にその姿を史跡整備という形で具現化していく作業も残されている。



令和3年12月に「白河市文化財保存活用地域計画」の認定を受け、文化財の調査研究に基づき、地域づくりの方針が明確化した。史跡はその中核をなす存在であり、今後の展開が期待される。

## おわりに

先達は、道跡に関わりを持つ中で、重要性を訴えながら、可能な限り保存に努めてきた。

その思いは、現代まで引き継がれ、計画的な取り組みのもと、文化財としての価値づけを行い、それをまちづくりに活かすことが市政の大きな柱となった。

道跡に関わる人の活躍が、特異性、希少性、独自性の高い道跡群の存在を明らかにし、その保存活用を固りつつ、多種多様な文化財に目を向ける新たな取り組みにもつながった。

足元にある文化財に光を当て、未来に継承するため「調査・研究・保存・活用」という文化財保護システムを構築し、持続可能な未来目標を持って文化財保護を実施している。

**これが「白河の歴史的風土」です。**

## 祝 まほろん20周年おめでとうございます



天王山道跡にて

白河市はこれからも  
まほろんを応援します。

